



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	研究施設再構築プロジェクト 新研究棟建設工事	階数	地上4F
建設地	神奈川県横浜市中区千鳥町8 番地	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定無し、法22条地域	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2023年12月21日
敷地面積	73,576 m ²	作成者	(株)三菱地所設計
建築面積	6,868 m ²	確認日	2023年12月25日
延床面積	22,063 m ²	確認者	(株)三菱地所設計

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★★☆☆☆☆

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 138 (kg-CO₂/年・m²)
 ②建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)
 ③上記+②以外の: 92 (kg-CO₂/年・m²)
 ④上記+: 92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: M/標準
 Q2 サービス性能: M/標準
 Q3 室外環境(敷地内): M/標準
 LR1 エネルギー: M/標準
 LR2 資源・マテリアル: M/標準
 LR3 敷地外環境: M/標準

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 既存敷地に建つ研究施設で地上4階建ての耐火建築物を計画。施設用途上機能的な建物としながら、敷地全体の研究施設の拠点となる空間づくりをするともに、設備バルニーによる日射遮蔽や効率的な設備の採用、運用面の高効率化等を一定の環境負荷低減を目指した。		その他 特になし
Q1 室内環境 ・ベリメータとインテリア別にゾーンを分けてながらインテリアゾーン毎に冷暖房の選択が可能な空調計画となっている。 ・各階外壁面に庇を設置しグレタ制御を行っている。	Q2 サービス性能 ・天井高さは3m以上の計画として快適な空間としながら、まとまったリフレッシュスペースを設けている。 ・内部用途に合わせたインテリア計画としてバースによるデザイン検討を実施している。	Q3 室外環境(敷地内) ・既存建物がある敷地となっているため、標準的な対応となっている。 ・計画建物では屋上緑化を設けている。
LR1 エネルギー ・BPI _m =0.73 ・BEI _m =0.68 ・共用・実験室系統それぞれで照明・設備動力を計測可能としている	LR2 資源・マテリアル ・躯体と仕上がりに容易に分離可能となっている(LGS+石膏ボード仕上)	LR3 敷地外環境 ・屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光に対する配慮を行っている ・大気汚染物質を発生させない配慮を行っている

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

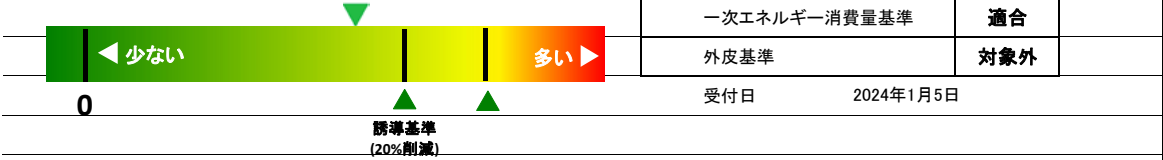
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 **研究施設再構築プロジェクト 新研究棟建設工事**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **4**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **32** %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

モデル建物法の計算よりBPI_m=0.73

モデル建物法の計算よりBEI_m=0.68

共用・実験室系統それぞれで照明・設備動力を計測可能

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **4**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

ペリーメーターの各室は個別PAC空調とし、4管式の外調機を採用している。

原則として全てF☆☆☆☆の材料を採用し中央管理方式で30m³/hの換気量を確保している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

天井高さは3m以上の計画として快適な空間としながら、まとまったリフレッシュスペースを設けている。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **4**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

建築基準法の1.25倍の耐震性にて計画している。

屋外露出ダクトはガルバリウムダクトを採用している。

空調・衛生設備の更新性に配慮した計画としている。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **3**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
エネルギーマネジメントシステム導入	



スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境									3.2	
1 音環境				3.0	0.15	-	-		3.0	
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	-		-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		-	
1	開口部遮音性能			3.0	0.60	3.0	-		-	
2	界壁遮音性能			3.0	0.40	3.0	-		-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	-		-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	-		-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		-	
2 温熱環境				3.1	0.35	-	-		3.1	
2.1 室温制御				3.3	0.50	-	-		-	
1	室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	3.0	-		-	
2	外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	3.0	-		-	
3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	4.0	0.38	-	-		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		-	
3 光・視環境				2.3	0.25	-	-		2.3	
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-		-	
1	昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.60	3.0	-		-	
2	方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	3.0	-		-	
3	昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	-		-	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	-	-		-	
1	昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	2.0	1.00	3.0	-		-	
3.3 照度				4.0	0.15	3.0	-		-	
3.4 照明制御				1.0	0.25	3.0	-		-	
4 空気環境				4.4	0.25	-	-		4.4	
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		-	
1	化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気環境	5.0	1.00	3.0	-		-	
4.2 換気				3.6	0.30	-	-		-	
1	換気量	快適・働きやすさ	⑪空気環境	4.0	0.33	3.0	-		-	
2	自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.33	3.0	-		-	
3	取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気環境	4.0	0.33	3.0	-		-	
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		-	
1	CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.50	-	-		-	
2	喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気環境	5.0	0.50	-	-		-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.7	
1 機能性				4.0	0.40	-	-		4.0	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		-	
1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	3.0	-		-	
2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	3.0	-		-	
3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	-	-		-	
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-		-	
1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33	3.0	-		-	
2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33	-	-		-	
3	内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33	3.0	-		-	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-		-	
1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-		-	
2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.50	-	-		-	
2 耐用性・信頼性				3.6	0.30	-	-		3.6	
2.1 耐震・免震				3.8	0.50	-	-		-	
1	耐震性	防災	⑬耐震・免震	4.0	0.80	-	-		-	
2	免震・制振性能	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30	-	-		-	
1	躯体材料の耐用年数	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.10	-	-		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-		-	
2.4 信頼性				4.0	0.20	-	-		-	
1	空調・換気設備	防災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-		-	
2	給排水・衛生設備	防災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-		-	
3	電気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-		-	
4	機械・配管支持方法	防災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-		-	
5	通信・情報設備	防災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-		-	
3 対応性・更新性				3.6	0.30	-	-		3.6	
3.1 空間のゆとり				4.2	0.30	-	-		-	
1	階高のゆとり			5.0	0.60	3.0	-		-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	-		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	-		-	
3.3 設備の更新性				3.6	0.40	-	-		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-		-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-		-	
3	電気配線の更新性			5.0	0.10	-	-		-	
4	通信配線の更新性			5.0	0.10	-	-		-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-		-	



スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		4.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.34	-	-			2.7
1	生物環境の保全と創出		⑧生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-			2.0
2	まちなみ・景観への配慮		⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-			3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		⑩地域性への配慮	3.0	0.50	-	-			-
3.2	敷地内温熱環境の向上		⑪敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		①建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-			5.0
2	自然エネルギー利用		②自然エネルギー利用	4.0	0.10	-	-			4.0
3	設備システムの高効率化		③設備システムの高効率化	4.2	0.50	-	-			4.2
4	効率的運用			3.5	0.20	-	-			3.5
	集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-			-
4.1	モニタリング		④効率的運用	4.0	0.50	-	-			-
4.2	運用管理体制		④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
	集合住宅の評価			-	-	-	-			-
4.1	モニタリング		④効率的運用	3.0	-	-	-			-
4.2	運用管理体制		④効率的運用	3.0	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			3.0
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-			3.4
1.1	節水			4.0	0.40	-	-			-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			-
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-			-
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-			-
2	非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-			3.1
2.1	材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-			-
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-			-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-			-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-			-
2.5	持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-			-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.20	-	-			-
3	汚染物質含有材料の使用回避			2.5	0.20	-	-			2.5
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-			-
3.2	フロン・ハロンの回避			2.3	0.70	-	-			-
1	消火剤			1.0	0.33	-	-			-
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-			-
3	冷媒			3.0	0.33	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.5
1	地球温暖化への配慮			3.9	0.33	-	-			3.9
2	地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-			3.5
2.1	大気汚染防止			5.0	0.25	-	-			-
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-			-
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-			-
1	雨水排水負荷低減			-	-	-	-			-
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-			-
3	交通負荷抑制			4.0	0.33	-	-			-
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.33	-	-			-
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-			3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			-
1	騒音			3.0	0.33	-	-			-
2	振動			3.0	0.33	-	-			-
3	悪臭			3.0	0.33	-	-			-
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-			-
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-			-
2	砂塵の抑制			3.0	-	-	-			-
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-			-
3.3	光害の抑制			4.4	0.20	-	-			-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-			-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目				-	-	-	-			-
<事務用途>				-	-	-	-			-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	5.0	-	-	-			-
<住宅用途>				-	-	-	-			-
健康と安心				-	-	-	-			-
1	化学汚染物質の対策		健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-			-
2	適切な換気計画		健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-			-
3	結露・カビ対策		健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-			-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心 ⑦防犯対策	-	-	-	-			-